

授業の具体的展開例

話し合いによるペア解決

T：いろいろな入れ物に、1ℓ と思う水を入れてみましょう（第2時での学習を想起させてから）。

C：1ℓのますの大きさを思い出してみよう。

C：1ℓは牛乳パックと同じだったよね。

T：容器の形をよく見て、比べてごらん。どの容器に入れたとき、一番深くなるだろう。深さの順番を考えてみるといいかもしれないよ。

C：どのくらいの深さまで入れたらいいかな。

C：水槽が一番深さが浅いと思うよ。〇cmくらいかな。

T：なぜそう考えたのか、理由を付け加えて話すといいね。

C：なべや洗面器も浅いだろうね。底が広いから。〇cmくらいかな。

C：バケツは少し深いだろうね。〇cmかな。

C：ペットボトルは、この中では、一番底が狭いから上の方まで入れようか。（省略）

T：では、1ℓかどうか確かめましょう。

（活動略）

どんなことに気がきましたか。

C：水槽に入れると1ℓは少なく見えます。

C：細長い入れ物に入れると、ずいぶんたくさん入れたみたいに見えます。

C：入れ物の底の広さが違うと、深さも違ってくるね。



児童のノート例

ぼくは、最初水そうにはもう少し水を入れたらいいと思いました。でも、となりの〇〇さんが、「水そうが一番そこが広いよ。だからあまりたくさん入らないんちゃう。」と言いました。その大きさを見て、ふかさを考えるといいなあと感じました。後で先生が「牛にゆうパックのことを考えるといい。」と言ったのでよく分かりました。

板書例

かさ当てゲームをしよう ～1ℓはどれくらいかな～

入れもの	名前 () ()	名前 () ()
なべ		
ペットボトル		
せんめんき		
バケツ		
水そう		

気づいたこと



「活用」の力を育てる評価の工夫

この単元は「かさの単位の必要性に気付き、その単位を知り、単位の相互関係を理解したり、量感を養ったりする」ことを目標にしている。第5時である本時では、児童がかさの見当付けをする時間を確保することが必要である。

1ℓますを想起させ、1ℓがどのくらいの量か、理由や根拠を考え、ペアで話し合わせ見当付けをさせる。その上で、一人一人に具体的な操作活動をさせ、量感を豊かにつかませる。その話し合いの様子、具体的な操作の様子を観察し、児童の学習状況を把握し、適切な指導を行う。

さらに、学習のまとめでは、授業における新たな気付きや学びを言語化し、整理する活動（振り返り）を取り入れることにより、「活用」の力を育成するとともに、学習の成果を把握する。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、入れ物の形に応じて見当を付け1ℓの水を入れる活動を行う。底の広い入れものは深さが浅くなり、底の狭い細長い形の入れ物だと深くなることに驚く児童もいる。第2時から使っている1ℓますを想起させ、その深さを予想した根拠や理由をペアで話し合うことにより、豊かな量感を養う。

「活用」の力を育む視点から、児童の学習の状態を類別してみると

- ①今までの学習活動を活かして、底面積と深さの関係に気付き、操作活動をするとともに、根拠や理由を説明することができる。
- ②今までの学習活動を活かして、底面積と深さの関係に気付き、操作活動をするすることができる。
- ③今まで学習したことを関連付けて考えることができず、水を入れる活動をしている。

のように考えられる。

③の状態の児童には、1ℓを量る具体的な操作活動と言語化された根拠や理由を繰り返し聞くことを通して、底面積と深さの関係を理解させる。また、十分に個別指導を行う。

教材・教具



1ℓをつくる容器として用意するもの

- なべ（できれば透明のもの…家庭科室にあるご飯炊き用）
- ペットボトル（1.5ℓ入りくらいの物）
- 洗面器
- バケツ
- 水槽 など、児童にとって身近な物をグループ数分を用意する。

HOME

本時の流れへ